

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

〒162-0045
東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階
Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124
E-mail: office@tokyo.msf.org

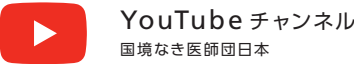
www.msf.or.jp

メールマガジンのご登録はこちらから

国境なき医師団 メールマガ 検索



国境なき医師団の最新の活動をご覧ください。



活動 報告書

2019年1月→12月

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

Activity Report 2019

January-December 2019
Médecins Sans Frontières Japan





国境なき医師団とは

About MSF

医療援助を第一に

国境なき医師団 (MSF) は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約70の国と地域で援助活動を行っています。1971年にフランスで設立されました。

独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

国境なき医師団憲章

The Charter of MSF

国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアはその職業倫理を尊びすべての政治的、経済的、宗教的権力から完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアはその任務の危険を認識し国境なき医師団が提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。

Contents

国境なき医師団とは／国境なき医師団憲章 About MSF / The Charter of MSF	3	財務報告 Financial Report	12
会長・事務局長からのあいさつ Message from the President & the General Director	5	【MSFワールドワイド】 2018年 活動概況 MSF Worldwide Facts & Figures	16
海外派遣実績 Field Staff Sent by MSF Japan	6	謝辞 Acknowledgements	18
活動地からの声 Voice from the Field	8	企業・団体・個人のご支援方法・事例 How to Support MSF	21
財務ハイライト Financial Highlights	10	MSF日本の活動から Updates of MSF Japan	23

紛争や暴力から逃れようと地中海を簡素なボートで渡る途中、命を落とす人が後を絶たない。2019年夏、MSFは海難救助活動を再開した。©Hannah Wallace Bowman/MSF

表紙：2019年10月、トルコの軍事作戦により多くのシリア難民がイラクへと逃れた。MSFは難民キャンプで外傷の治療や心のケアを提供。©Moises Saman/Magnum Photos
裏表紙：MSFのスタッフが手を取るのは、この日無事に退院の日を迎えた女性。HIVが進行した彼女はマラウイ南部の病院で治療を受けていた。©Isabel Cortthier/MSF

猛威を振るい続ける感染症、終わりの見えない紛争や暴力……

さまざまな困難の中、国境なき医師団は命の危機に対応し続けました。

国境なき医師団(MSF)スタッフを代表して、2019年に賜りましたご支援に心より御礼を申し上げ、活動のご報告をいたします。皆さまのご支援で、MSFは世界およそ70の国と地域で400件を超えるプロジェクトを進め、はしかやマラリア、HIV／エイズ、結核などの感染症の予防と治療、紛争や事故・テロなどによる負傷者の再建手術と心のケア、妊産婦と新生児のケアなど幅広い医療援助活動を行うことができました。

いくつかの国では喜ばしい展開がありました。6月にはミャンマーで多くのHIV／エイズ患者を受け入れてきたインセイン診療所が活動を終え、国のプログラムに移譲。11月にはナイジェリア・クロスリバー州での活動を地域に引き継ぎました。一方で他の多くの国々では、いまだ緊急の医療・人道援助を要する状況が続いています。

アフリカのコンゴ民主共和国では、エボラ出血熱の流行が続きました。症例数は3000を超え、2000人余りが亡くなったと報告されています。昨年は医療機関への襲撃も発生し、MSFの活動が難しい事態にも陥りました。

地中海では、紛争や迫害、貧困を逃れるため、大勢の人が欧州を目指す過酷な旅に挑んでいます。しかし安全とは言い難い旅の過程で暴力や搾取を受ける人が多いです。MSFは2018年末に活動停止を余儀なくされた地中海での海難捜索・救助活動を2019年7月に再開しました。

混迷を深める紛争が9年以上続く中東のシリアでは38万人以上が命を奪われ、また、国民の約8割にあたる1300万人が国内外に逃れています。2019年10月以降は隣国トルコの軍事作戦に端を発する安全上の理由から、MSFは北西部での大半の活動の中止を余儀なくされました。人道援助団体の活動も妨害される中、MSFは病院・診療所を運営または支援し、避難民キャンプを遠隔支援する体制を維持しています。

イエメンでは近年のコレラやジフテリアの流行と、戦闘の激化で、もとより深刻な人道危機状況がさらに悪化しました。2015年の内戦勃発以来、住まいを追われた人は360万人を超えています。2400万人が人道援助を必要とすると推定されるイエメンでの活動は、MSFの世界各地における活動の中でも最大規模となっています。

日本に近い南アジアのバングラデシュには、90万人を超えるイスラム少数民族のロヒンギャの人びとが避難生活を続けています。そのうち75万人以上は、2017年8月に祖国ミャンマーで発生した軍の襲撃を逃れてきた人たちです。避難先では移動も就労も制限され、人道援助だけが頼みの綱です。劣悪な生活環境が原因で感染症にかかる人も多く、MSFの診療所では2017年8月からの約2年で130万件あまりの診察を行いました。

皆さまのご支援とMSFに寄せてくださる信頼は、私たちの活動継続を可能にするばかりでなく、より多くの人びとに医療援助を届ける責任感を私たちに与えてくださいます。これからも私たちは、ご支援くださる方々の輪を広げられるよう、また、多くの方々に人道援助活動の意義を理解していただけるように取り組むとともに、援助を必要とする人びとに医療を届けるため、独立・中立・公平な組織として最善を尽くしてまいります。



国境なき医師団日本
会長
久留宮 隆
Takashi Kurumiya MD
President
Médecins Sans Frontières Japan

久留宮 隆



国境なき医師団日本
前会長
(2015年3月～2020年3月)
加藤 寛幸
Hiroyuki Kato MD
Former President
Médecins Sans Frontières Japan

加藤 寛幸



国境なき医師団日本
事務局長
ジェレミ・ボダン
Jérémie Bodin
General Director
Médecins Sans Frontières Japan

ジェレミ・ボダン

日本からは100人が派遣され、34の国と地域で援助活動を行いました。

2019年、国境なき医師団(MSF)は70以上の国と地域で援助活動を実施。

そのうちMSF日本からは100人のスタッフが、延べ124回、34の国と地域に派遣されました。

※ リストは2019年に現地で活動を開始した人が対象。



妊産婦ケアや性暴力を含む暴力の被害者の治療
[ホンジュラス／助産師]

ハイチ

熊澤 ゆり(財務コーディネーター)

ホンジュラス

國吉 悠貴(助産師)

シエラレオネ

宮家 佐知子(IEC)



武力から逃れてきた国内避難民への医療の提供
[ナイジェリア／広報]

パレスチナ

安藤 恒平(整形外科医) 村上 裕子(整形外科医)
三浦 由紀子(麻酔科医) 大竹 優子(手術室看護師)
西岡 憲吾(麻酔科医) 門馬 秀介(整形外科医)

ヨルダン

宋 正実(サプライ・コーディネーター)

ギリシャ

上平 明美(医療チームリーダー)

リビア

小島 穂奈(助産師)

南スーダン

安西 兼丈(外科医) * 同国2回 松田 隆行(ロジスティシャン)
伊藤 洋子(アドミニストレーター) 赤羽 宏基(産婦人科医)
金子 将規(メカニカル・ロジスティシャン) 保野 由紀子(産婦人科医)
山内 貴(薬剤師) 李 亘(フライト・コーディネーター)
篠村 英明(薬剤師) 李 理華(産婦人科医)
小椋 奈緒(小児科医)

ナイジェリア

堀田 浩平(薬剤師) 大塚 千亜希(アドミニストレーター)
丸井 和子(ロジスティシャン) 米澤 出(産婦人科医)
捨田利 外茂夫(外科医) 堀 正貴(サプライ・ロジスティシャン)
西野 恭平(疫学専門家) 趙 潤華(広報)
村元 菜穂(ロジスティシャン)

コートジボワール

空野 すみれ(産婦人科医)

チャド

小坂 真理子(サプライ・ロジスティシャン)

カメルーン

渥美 智晶(外科医) 久留宮 隆(外科医) 西岡 憲吾(麻酔科医)
臼井 律郎(外科医) 小口 卓人(副活動責任者) 村上 大樹(外科医)
吉田 文(医療チームリーダー) 小林 直之(外科医)

中央アフリカ共和国

園田 亜矢(IEC) 村上 千佳(助産師)
岩元 祐太(内科医) 堀 正貴(サプライ・ロジスティシャン)

コンゴ民主共和国

ディディエ・ジャック・アサル 杉山 結理(助産師)
(ロジスティック・コーディネーター) 李 亘(フライト・コーディネーター)
松本 明子(医療コーディネーター)

シリア

倉内 瞳(医療チームリーダー)
末藤 千翔(アドミニストレーター)

イラク

遠藤 大(麻酔科医)
下山 由華(プロジェクト・コーディネーター)
岩川 真由美(小児科医)
吉野 美幸(外科医)
橋本 拓磨(手術室看護師)
上村 三徳(手術室看護師)
真山 剛(救急医)
池田 知也(外科医)
長村 裕(アドミニストレーター)
長田 千愛(麻酔科医)
土岐 翠(助産師)
平井 亜由子(医療コーディネーター)
北川 順子(アドミニストレーター)
木村 与志子(手術室看護師)
野坂 慎吾(アドミニストレーター)

アフガニスタン

セラフィマ・コシンスカヤ
(アドミニストレーター)
マルセロ・ナヴァーロ・イトカン
(ロジスティシャン)
井田 覚(活動責任者)
今村 剛朗(救急医)

山住 邦夫(建築士)
小篠 哲子(助産師)
中山 恵美子(救急医)
的場 紅実(薬剤師)
白根 麻衣子
(アドミニストレーター)

イエメン

パヴェル・ウサニン(外科医) 松田 隆行(ロジスティシャン)
遠藤 大(麻酔科医) 真山 剛(救急医)
関 聡志(外科医) 倉之段 千恵(手術室看護師)
丸井 和子(ロジスティシャン) 袖野 美穂(小児科医)
岩川 真由美(小児科医) 大竹 優子(手術室看護師)
佐藤 聖子(麻酔科医) 滝上 隆一(外科医)
小野里 宏代(アドミニストレーター) 池田 知也(外科医)

バングラデシュ

護法 亜葵(助産師) 辻 綾子(アドミニストレーター)
西山 聡子(アドミニストレーター)

ミャンマー

柴山 哲哉(アドミニストレーター)

スリランカ

久留宮 隆(外科医)

フィリピン

伊達山 光(アドミニストレーター)

ベトナム

中嶋 秀昭(プロジェクト・コーディネーター)

カンボジア

スー・ミャット・ハン(アドボカシー)

バブアニューギニア

高橋 千恵(アドミニストレーター)

ソマリア

倉之段 千恵(看護師)

エチオピア

ディディエ・ジャック・アサル(ロジスティック・コーディネーター)
松本 明子(医療コーディネーター)

スーダン

岩元 祐太(医療チームリーダー) 萩原 健(プロジェクト・コーディネーター)
川内 勇希(メカニカル・ロジスティシャン) 野坂 慎吾(人事・財務コーディネーター)
道津 美岐子(医療コーディネーター)

ウガンダ

宮澤 明子(サプライ・ロジスティシャン) 藤田 真人(ロジスティシャン)

ケニア

伊藤 まり子(産婦人科医)

タンザニア

趙 潤華(広報)

モザンビーク

平塚 竜一(アドミニストレーター／ロジスティシャン) * 同国2回

マラウイ

畑井 珠恵(アドミニストレーター) 福岡 一美(手術室看護師)
畑井 智行(看護師)

ジンバブエ

上西 里菜子(プロジェクト・コーディネーター)

日本からスタッフが派遣された国・地域

その他のMSFの活動国・地域
現地調査など小規模な活動のみの場合は含まれません。

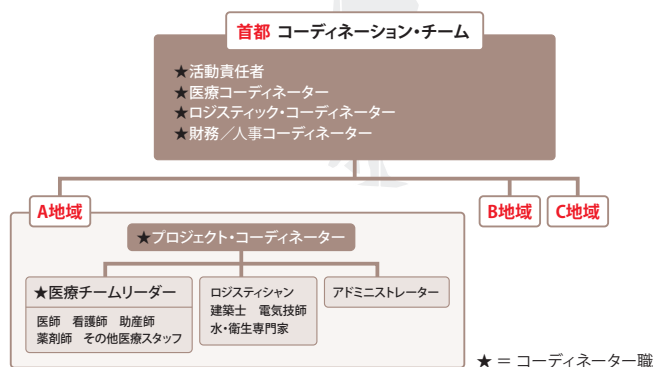
海難救助活動

海外派遣スタッフを募集しています。

MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士)およびロジスティシャン、アドミニストレーターなどを常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

E-mail: recruit@tokyo.msf.org
www.msf.or.jp/team_msf/

MSF 現地活動組織図



MSF日本 職種別派遣回数

医師	42回	医療チームリーダー	4回
アドミニストレーター*1	16回	IEC*4	2回
ロジスティシャン*2	15回	広報	2回
その他のコーディネーター*3	11回	活動責任者	1回
看護師	10回	副活動責任者	1回
助産師	7回	疫学専門家	1回
プロジェクト・コーディネーター	6回	アドボカシー*5	1回
薬剤師	5回	合計	124回

2019年の初回派遣割合
約26%(26人)

*1 アドミニストレーター: 現地活動の財務・会計・人事管理を担当。

*2 ロジスティシャン: 物資調達、施設・機材・車両管理等、状況に応じて医療以外の業務全般を担当。

*3 その他のコーディネーター: 活動責任者・副活動責任者およびプロジェクト・コーディネーター以外のコーディネーター職。

*4 IEC: Information Education Communicationの略。コミュニティ内の健康教育・開発活動を担当。

*5 アドボカシー: 政府機関や関係諸団体と交渉し、人道援助のための政策の変更や新たな施策を求める活動を担当。

日本から派遣された海外派遣スタッフ2人が、
2019年の活動を報告します。

2度の脚の切断手術を 乗り越えたサリム君。その様子が スタッフ全員の喜びに

佐藤真史(手術室看護師／イラク)

2018年11月末から約6ヵ月、手術室マネジャーとしてイラクのモスルで活動しました。紛争終結から2年が経過しても医療が行き渡らず、国境なき医師団(MSF)の病院には、複雑なけがを負い何度も手術が必要な人がたくさん運ばれてきました。多くの患者さんが痛みと不安で震えていました。私は少しでも不安を軽減できるよう、スタッフに教わったアラビア語を使って笑顔で語り掛けました。中には交通事故に遭った子もいて、同年代の子を持つスタッフに「自分の子と同じように声掛けしてほしい」とお願いしました。手術室スタッフは患者さんを第一に考え、みんな本当に優しく声を掛けていました。

多くの患者さんの中でも、サリム君は強く印象に残っています。交通事故で運ばれてきたときは両脚ともにひどい状態で、痛みで打ち震えていました。外科医はできるだけ脚を切断しないようにと努力したものの実らず、右脚は膝下から切

断せざるを得ませんでした。手術室の外では、お父さんが心配そうに手術が終わるのを待っていました。

術後、これで大丈夫だろうということになりましたが、数日後、膝上から切断する手術が再度必要ということがわかりました。その日は木曜日。通常この病院では金曜と土曜に手術室を閉めますが、「日曜日まで待てない」との判断で土曜日に手術をすることになりました。多くの現地スタッフが、休日にもかかわらず嫌な顔ひとつせずに出動してくれました。

みんなの努力のかいあって、サリム君はこの手術以降、順調に回復しました。やせこけていた顔もどんどん丸くなり、栄養状態も改善していることがわかりました。あいさつすると笑顔で手を振ってくれて、本当にうれしく感じました。無事に退院が決まったとき、手術室スタッフに報告をすると、みんな大喜びでした。

退院後もサリム君は外来に来ていて、声を掛けると元気そうに返事をしてくれました。ちょうど私の最終出勤日に無事に創外固定の器具が外れました。とてもうれしいニュースでした。

手術室のドアにはスタッフの写真と「あなたのためにここにあります」という患者さんへのメッセージを掲げている。



イラク

2017年に紛争が終わったものの、高い医療ニーズに見合う保健医療体制がまだ不足。MSFは住民や避難民キャンプで暮らす人びとだけでなく、シリアから逃れてきた難民の人びとも医療を提供している。



外来診療に来たときのサリム君と。
©MSF

地元の患者さんから受けた 温かな歓迎。 結核プロジェクトの業績を実感

高橋千恵(アドミニストレーター／パプアニューギニア)

私が赴任したのは、パプアニューギニアの熱帯雨林の奥深くに位置するケレマという村でした。ケレマは首都から車で西へ約7時間行った道路の終点にあり、MSFは病院と周辺2ヵ所の診療所を拠点に約200人の結核患者の治療を行っています。

結核を完治させるには、最大2年間、副作用が強い薬を飲み続けなくてはなりません。しかしケレマでの診療の最大の問題点は地理にあります。周辺の村と村の間には道がなく、患者さんはケレマまで定期的に診察に来ることが困難な場合が多いため、医療チームは病院での診療に加え、密林を流れる川を小型ボートに乗って村々を訪問して患者さんの服薬や治療のサポートなどをする「アウトリーチ活動」*も行っています。

アドミニストレーターの仕事は、活動資金の管理や現地スタッフの人事管理です。私はマネジャーとして、1キナ(現地通貨)たりとも無駄なく活動に生かされるように会計書類の確

※こちらから出向いて、援助を必要としている人びとを積極的に見つけ出し、サービスを提供すること。



パプアニューギニア

首都ポートモレスビーと湾岸州のケレマで、MSFは国民の死因の2位である結核への取り組みに注力。病院へのアクセスが悪い地域に住む人びとも検査や診断、治療を受けられるようアウトリーチ活動も実施。



認・承認や、現地スタッフ約75名の雇用、勤怠や休暇の管理、月々の給与の支払いなどを行いました。また、全スタッフを招集する重要な全体会議も定期的に開催しました。この会議では、プロジェクト・コーディネーターから今後の活動の展望について話があり、各チームの活動内容の共有が行われます。そんな中、現地スタッフの最大の関心事はやはり彼らの生活に直結する人事です。アドミニストレーターとして、この機会に人事上のルールやスタッフが受けられる福利厚生について説明するだけでなく、何か問題が起きた際の処罰など厳しい内容についても周知徹底することを心掛けました。

仕事柄オフィスで過ごすことが多い中、1度、医療チームのアウトリーチ活動に同行し、熱帯雨林の村々で患者さんと触れ合う機会がありました。MSFはケレマ周辺で肺結核の治療を行っている数少ない団体です。そのため、行く先々で特に肺結核の患者さんがMSFへの感謝とともに温かく迎えてくれました。プロジェクト立ち上げから現在まで肺結核と戦ってきたチームの業績を実感できた、貴重な瞬間でした。

ボートに乗り、患者さんの
のもとを回るアウトリーチ
活動に同行。



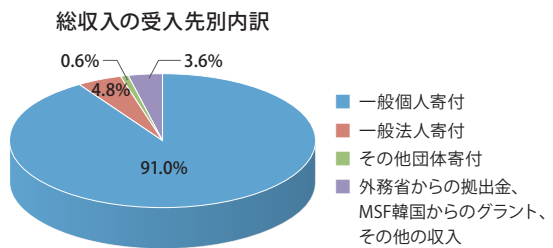
患者さんの服薬をサポートするスタッフと課題について話し合う。
©Sara Bechstein/MSF

財務的に総括しますと、国境なき医師団（MSF）日本の2019年度の収益は、個人および法人支援者等からの寄付が108.5億円で、前年比27.8%増加しました。外務省からの拠出金等を加えた経常収益は合計112.6億円となり、前年比で26.3%増加し、MSF日本の最高収益を記録しました。一方、ソーシャル・ミッション費も、前年比30.0%増加し、過去最大の91.2億円を計上しました。これ以外に、募金活動費、一般管理費、その他海外への支援金等を合わせて、経常費用111.6億円を計上しました。その結果、最終収支は9500万円の余剰となり、正味財産（剰余金）の期末残高は、10.2億円となりました。

プログラム支援金は、オペレーション事務局を通し、合計26の国と地域で運営された援助プログラムに配分されました。今後とも、この財務報告を通し、透明性のある説明責任に努めてまいります。

1. 総収入（経常収益）は112.6億円（前年比26.3%増）

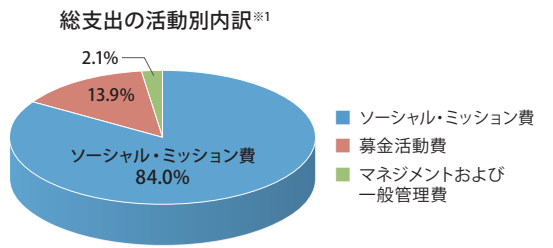
総収入の内訳は、民間からの寄付収入が108.5億円。他に、外務省からの拠出金やMSF韓国からのグラントが計4億円、および、その他の収入が314万円でした。なお、支援者数の内訳は、右記の通りです。



一般個人支援者数 34万6984人
一般法人支援社数 7264社
その他支援団体数 1864団体
支援者総数 35万6112
支援者総数は、前年比で10%増加しました。

2. 総支出（経常費用）は111.6億円（前年比25.4%増）

活動別支出内訳は、右図の通りです。人道援助プログラム支援金やオペレーション・サポート費、海外派遣スタッフの募集・派遣業務、広報・アドボカシー活動費を合わせた、ソーシャル・ミッション費は前年比30.0%増加し、計91.2億円。ソーシャル・ミッション・レシオとしては81.5%から84.0%に上昇しました。



(百万円)
ソーシャル・ミッション費 9,121
募金活動費 1,514
マネジメントおよび一般管理費 225
その他海外向け支援金等 302
経常費用合計 11,162

詳細は、P.12の「主要財務諸表、正味財産増減計算書」をご参照ください。

ソーシャル・ミッションとは

MSFでは、「ソーシャル・ミッション」という言葉を「人道援助活動」という意味で使用しています。ソーシャル・ミッション・レシオとは、「人道援助活動」費用が、日本での活動費用^{※2}に占める比率のことで、“皆さまからお預かりした資金を、いかに医療・人道援助活動へ優先して充当しているか”を評価する尺度として使っています。

※ 1 「その他海外向け支援金等」を除く。 ※ 2 日本での活動費用とは、総支出額の合計から「その他海外向け支援金等」を控除した費用。

3. 人道援助プログラム支援金は総額85.3億円（前年比30.8%増）

MSF日本は2019年度において、資金配分協定RSA-3（the 3rd MSF Resource Sharing Agreement）に基づき、パートナーシップ関係にあるMSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイスに対し総額84.8億円、および緊急援助資金としてMSFオランダに対し4800万円、合計85.3億円の支援金を配分しました。

4. 監査体制について

MSF日本では、会計および業務全体に対して監事による監査（右参照）とともに、外部の監査法人（あずさ監査法人）に依頼して、日本の会計監査を受けています。ならびに、MSF国際版財務報告書（スイス会計基準）のうち、日本の部分に関しても同法人の監査を受けています。

監査報告書	
2020年3月17日	
特定非営利活動法人国境なき医師団日本 理事長 加藤寛幸 殿	監事 ジル・デルマス
特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人 国境なき医師団日本の2019年度（2019年1月1日から2019年12月31日までの事業報告書および計算書（貸借対照表および正味財産増減計算書、財務諸表））について監査を行った。	
1. 監査の方法及びその内容	
(1) 会計監査 適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度における会計監査人の監査対象としている財務諸表等について検証いたしました。	
(2) 業務監査 理事の業務執行の監査については、2019年度中の理事会その他重要な会議に出席し、理事会及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決断事項などを確認し、業務執行の正当性を検討しました。	
2. 監査の結果	
(1) 会計監査は一般に構成妥当だと認められる会計期間にしたがって適正に処理されているものと認められます。	
(2) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事象はないと認めます。	
上記の計算書が特定非営利活動法人国境なき医師団日本の2019年12月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況および将来の財政状況を適正に表示しているものと認めます。	
以上	

（注）個別数値は四捨五入して表記しているため、内訳の合計が総数に合わないことがあります。以下のページも同じです。

付表 1. MSF日本による2019年度の医療・人道援助プログラム支援金の配分先

MSF日本が2019年度に拠出した人道援助プログラム支援金85.3億円は、以下の26の国と地域の各プログラムに配分されました。

	国／地域	金額 (百万円)	2019年度の主要プログラム
アフリカ	コンゴ民主共和国	1,421.4	暴力被害者支援／心のケア／エボラ出血熱／コレラ／はしか
	南スーダン	585.0	紛争による負傷者治療／難民・国内避難民への基礎医療／母子保健
	ナイジェリア	400.0	暴力・性暴力被害者支援／母子保健／栄養失調
	エチオピア	374.2	紛争による負傷者治療／基礎医療／感染症対策／心のケア
	ケニア	300.0	産科医療／性暴力被害者支援／結核／HIV／エイズ
	中央アフリカ共和国	250.0	暴力・性暴力被害者支援／栄養失調／マラリア／はしか
	チャド	250.0	紛争による負傷者治療／心のケア／栄養失調／はしか
	ウガンダ	200.0	南スーダン難民への医療援助／HIV／エイズ
	ニジェール	200.0	小児科医療／栄養失調／マラリア
	ブルキナファソ	159.6	デング熱／国内避難民への医療援助
	マリ	150.0	紛争による負傷者治療／基礎医療／心のケア
	リベリア	150.0	小児医療／心のケア
計		4,440.2	
中東	イエメン	742.0	紛争による負傷者治療／基礎医療／コレラ／はしか
	パレスチナ	650.0	紛争による負傷者治療／基礎医療／心のケア
	シリア	460.0	紛争による負傷者治療／国内避難民への基礎医療
	イラク	450.0	紛争による負傷者治療／心のケア／産科医療／栄養失調
	レバノン	350.0	シリア・パレスチナ難民への医療援助・心のケア
	ヨルダン	335.0	シリア・パレスチナ難民への医療援助・再建外科・心のケア
	計	2,987.0	
ヨーロッパ	ギリシャ	118.4	中東やアフリカからの難民への医療援助・心のケア
	計	118.4	
中南米	コロンビア	185.0	性暴力被害者支援
	計	185.0	
アジア	フィリピン	150.0	子宮頸がんワクチン接種／家族計画／産科医療／性暴力被害者支援
	バングラデシュ	148.0	ロヒンギャ難民への医療援助
	パキスタン	100.0	母子保健／基礎医療／皮膚リーシュマニア症
	アフガニスタン	100.0	母子保健／産科医療
	カンボジア	50.0	C型肝炎／マラリア
	計	548.0	
オセアニア	バブアニューギニア	250.0	結核
	計	250.0	
総計		8,528.6	

付表 2. MSF日本による2019年度の使途指定寄付の配分先

2019年、MSF日本は下記の使途指定寄付を受け付けました。また総計6.9億円は付表 1 に記した人道援助プログラム支援金85.3億円に含まれます。

使途指定内容	金額(百万円)	配分された国と地域
2019年感染症緊急対応	581.3	コンゴ民主共和国、チャド、ニジェール、ナイジェリア、イエメン
「緊急チーム」募金	46.1	コンゴ民主共和国、イエメン
東京マラソン2020チャリティ	32.8	ヨルダン（アンマン）
ロヒンギャ難民緊急援助	15.9	バングラデシュ
シリア緊急援助	7.6	シリア
ナイジェリア緊急援助	3.1	ナイジェリア
中央アフリカ共和国緊急支援	2.5	中央アフリカ共和国
東京マラソン2019チャリティ	0.1	パレスチナ（ガザ）
総計	689.4	

上記の他に、バングラデシュでのロヒンギャ難民への医療援助活動に対し、外務省から約4900万円の拠出を受けました。

＊MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

正味財産増減計算書

自 2019年1月1日 至 2019年12月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度		前 年 度		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減	増減比
I. 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 寄付収入(財務諸表注記 1(4) 参照)	10,852,784,410	100.0%	8,490,258,305	100.0%	2,362,526,105	27.8%
一般個人寄付	10,244,785,008	94.4%	7,880,537,956	92.8%	2,364,247,052	30.0%
一般法人寄付	539,999,588	5.0%	526,938,166	6.2%	13,061,422	2.5%
その他団体寄付	67,999,814	0.6%	82,782,183	1.0%	△ 14,782,369	△17.9%
② 助成金等による収入	401,397,652		417,614,460		△ 16,216,808	△3.9%
外務省国際機関等拠出金(財務諸表注記 10 参照)	49,366,008		149,564,903		△ 100,198,895	△67.0%
MSF韓国からのグラント	352,031,644		268,049,557		83,982,087	31.3%
③ その他の収入	3,135,492		2,283,095		852,397	37.3%
アソシエーション会費収入	550,470		605,939		△ 55,469	△9.2%
利息収入および評価益等	2,585,022		1,677,156		907,866	54.1%
経常収益 合計	11,257,317,554		8,910,155,860		2,347,161,694	26.3%
(2) 経常費用(財務諸表注記 1(6) 参照)						
ソーシャル・ミッション (①+②+③+④+⑤)	9,120,893,412	84.0%	7,015,735,017	81.5%	2,105,158,395	30.0%
① 援助活動費	8,542,661,646	78.7%	6,532,168,042	75.9%	2,010,493,604	30.8%
人道援助プログラム支援金(財務諸表注記 10 参照)	8,528,685,292		6,520,831,042		2,007,854,250	30.8%
その他の人道援助活動費	13,976,354		11,337,000		2,639,354	23.3%
② オペレーション・サポート・プロジェクト	97,092,593	0.9%	53,506,982	0.6%	43,585,611	81.5%
人件費	56,954,023		38,564,367		18,389,656	47.7%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	40,138,570		14,942,615		25,195,955	168.6%
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	119,350,457	1.1%	111,352,989	1.3%	7,997,468	7.2%
人件費	78,743,172		76,753,217		1,989,955	2.6%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	40,607,285		34,599,772		6,007,513	17.4%
④ アドボカシー活動費	18,379,734	0.2%	32,011,489	0.4%	△ 13,631,755	△42.6%
人件費等	18,379,734		32,011,489		△ 13,631,755	△42.6%
⑤ 広報活動費	343,408,982	3.2%	286,695,515	3.3%	56,713,467	19.8%
人件費	92,089,013		95,122,890		△ 3,033,877	△3.2%
ニュースレター・イベント等による広報活動費	143,940,635		131,151,055		12,789,580	9.8%
ウェブサイト管理費	24,907,594		5,474,839		19,432,755	354.9%
業務委託手数料等	33,385,338		25,329,725		8,055,613	31.8%
印刷費	111,933		1,953,215		△ 1,841,282	△94.3%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	48,974,469		27,663,791		21,310,678	77.0%
募金活動費	1,514,433,411	13.9%	1,400,485,784	16.3%	113,947,627	8.1%
人件費	143,691,984		150,974,289		△ 7,282,305	△4.8%
ファンドレイジング・キャンペーン費	932,143,157		869,442,281		62,700,876	7.2%
業務委託手数料およびシステム関連費	273,502,506		181,989,048		91,513,458	50.3%
通信および書類等発送費	51,814,881		54,680,443		△ 2,865,562	△5.2%
印刷費	18,036,756		17,920,740		116,016	0.6%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	95,244,127		125,478,983		△ 30,234,856	△24.1%
マネージメントおよび一般管理費	224,970,353	2.1%	191,108,334	2.2%	33,862,019	17.7%
人件費	150,882,194		130,621,485		20,260,709	15.5%
アソシエーション関連経費(人件費を除く)	21,609,806		14,568,965		7,040,841	48.3%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	52,478,353		45,917,884		6,560,469	14.3%
その他海外向け支援金等	301,700,551	-	297,048,315	-	4,652,236	1.6%
DNDiへの支援金	21,310,160		21,759,408		△ 449,248	△2.1%
必須医薬品キャンペーン支援金	30,920,363		29,436,831		1,483,532	5.0%
MSFインターナショナル事務局経費	108,704,497		118,638,605		△ 9,934,108	△8.4%
MSF韓国事務所活動支援金	140,765,531		127,213,471		13,552,060	10.7%
経常費用 合計	11,161,997,727	100.0%	8,904,377,450	100.0%	2,257,620,277	25.4%
一般正味財産当期増減額	95,319,827		5,778,410		89,541,417	-
一般正味財産期首残高	895,817,648		890,039,238		5,778,410	-
一般正味財産期末残高	991,137,475		895,817,648		95,319,827	-
II. 指定正味財産増減の部						
1. 使途指定寄付金受入額	738,743,447		316,182,510		422,560,937	-
2. 一般正味財産への振替額	723,491,090		298,661,510		424,829,580	-
指定正味財産当期増減額	15,252,357		17,521,000		△ 2,268,643	-
指定正味財産期首残高(財務諸表注記 2 参照)	17,521,000		-		17,521,000	-
指定正味財産期末残高(財務諸表注記 2 参照)	32,773,357		17,521,000		15,252,357	-
III. 次期繰越正味財産期末残高	1,023,910,832		913,338,648		110,572,184	12.1%

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2019年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	増 減 比
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金および預金	2,129,418,761	1,354,727,063	774,691,698	57.2%
未収入金(財務諸表注記 6 参照)	219,290,460	200,324,585	18,965,875	9.5%
前払費用	11,869,282	12,553,957	△ 684,675	△5.5%
立替金	481,877	168,000	313,877	186.8%
その他流動資産	23,536,338	15,003,429	8,532,909	56.9%
流動資産合計	2,384,596,718	1,582,777,034	801,819,684	50.7%
2. 固定資産				
1) 特定資産(財務諸表注記 3 参照)				
人道援助プログラム支援金積立資金	32,773,357	17,521,000	15,252,357	87.1%
2) その他の固定資産(財務諸表注記 5 参照)				
建物附属設備	17,949,288	27,897,075	△ 9,947,787	△35.7%
事務用什器・備品	38,623,068	22,651,992	15,971,076	70.5%
ソフトウェア	17,491,494	26,072,191	△ 8,580,697	△32.9%
長期差入保証金等	42,299,540	41,573,000	726,540	1.7%
固定資産合計	149,136,747	135,715,258	13,421,489	9.9%
資産合計	2,533,733,465	1,718,492,292	815,241,173	47.4%
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	1,457,581,967	763,312,559	694,269,408	91.0%
預り金等	2,919,666	2,074,185	845,481	40.8%
流動負債合計	1,460,501,633	765,386,744	695,114,889	90.8%
2. 固定負債				
退職給付引当金(財務諸表注記 9 参照)	49,321,000	39,766,900	9,554,100	24.0%
固定負債合計	49,321,000	39,766,900	9,554,100	24.0%
負債合計	1,509,822,633	805,153,644	704,668,989	87.5%
III. 正味財産の部				
指定正味財産(財務諸表注記 3 参照)	32,773,357	17,521,000	15,252,357	87.1%
一般正味財産	991,137,475	895,817,648	95,319,827	10.6%
正味財産合計	1,023,910,832	913,338,648	110,572,184	12.1%
負債および正味財産合計	2,533,733,465	1,718,492,292	815,241,173	47.4%

財務報告 (財務諸表に対する注記)
Financial Reports (Notes to Financial Statements)

＊MSF日本の財務諸表の詳細は公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 財務諸表の作成基準

当年度から、「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 定額法によっている。

耐用年数は建物附属設備および什器は3～5年、器具備品およびビデオ機器は3年

②ソフトウェア 定額法によっている。

耐用年数は3～5年

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

(4) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。

現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、ICT 機器、ソフトウェア、マイレージ等の役務提供の支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価額を見積もり、「寄付収入」として認識し、事業供用時に費用を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(6) 経常費用について

費用については主要な活動別に区分して表示している。

①ソーシャル・ミッション

人道活動援助費用、活動のためのスタッフ募集等、医療および研究・開発、広報およびアドボカシー費用など活動をサポートする費用

②募金活動費

③管理部門費

④その他MSF海外オフィス費用および必須医薬品キャンペーン・新薬開発イニシアティブへのサポート費用

2. 基本財産および特定資産の増減額ならびにその内訳

基本財産および特定資産の増減額ならびにその内訳は、次のとおりである。

(単位:円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
特定資産	17,521,000	32,773,357	17,521,000	32,773,357
小 計	17,521,000	32,773,357	17,521,000	32,773,357
合 計	17,521,000	32,773,357	17,521,000	32,773,357

3. 基本財産および特定資産の財産等の内訳

基本財産および特定資産の財産等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-
特定資産	32,773,357	(32,773,357)	-	-
小 計	32,773,357	(32,773,357)	-	-
合 計	32,773,357	(32,773,357)	-	-

4. 担保に供している資産

該当事項はない。

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高は、次のとおりである。

(単位:円)			
科 目	取得価額	減価償却額	当年度末残高
建物附属設備	51,494,334	33,545,046	17,949,288
事務什器備品	106,520,323	67,897,255	38,623,068
什器	21,031,294	16,943,155	4,088,139
器具・備品	78,975,400	44,494,763	34,480,637
ビデオ機器	6,513,629	6,459,337	54,292
ソフトウェア	86,853,238	69,361,744	17,491,494
総 計	244,867,895	170,804,045	74,063,850

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)			
科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	219,290,460	-	219,290,460
総 計	219,290,460	-	219,290,460

7. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)	
科 目	金 額
経常収益への振替額	17,521,000
総 計	17,521,000

9. 退職給付引当金

(1) 採用している退職給付制度の概要

内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務およびその内訳

退職給付債務 49,321,000円、退職給付引当金 49,321,000円

(3) 退職給付費用

15,058,000円

10. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

(単位:円)				
	国内支援者からの寄付	外務省からの拠出金	MSF韓国からのグラント	プログラム支援金合計
MSFフランス	5,584,602,348	-	352,031,644	5,936,633,992
MSFスペイン	1,696,000,000	-	-	1,696,000,000
MSFスイス	848,000,000	-	-	848,000,000
MSFオランダ	-	48,051,300	-	48,051,300
総 計	8,128,602,348	48,051,300	352,031,644	8,528,685,292

11. 重要な後発事象

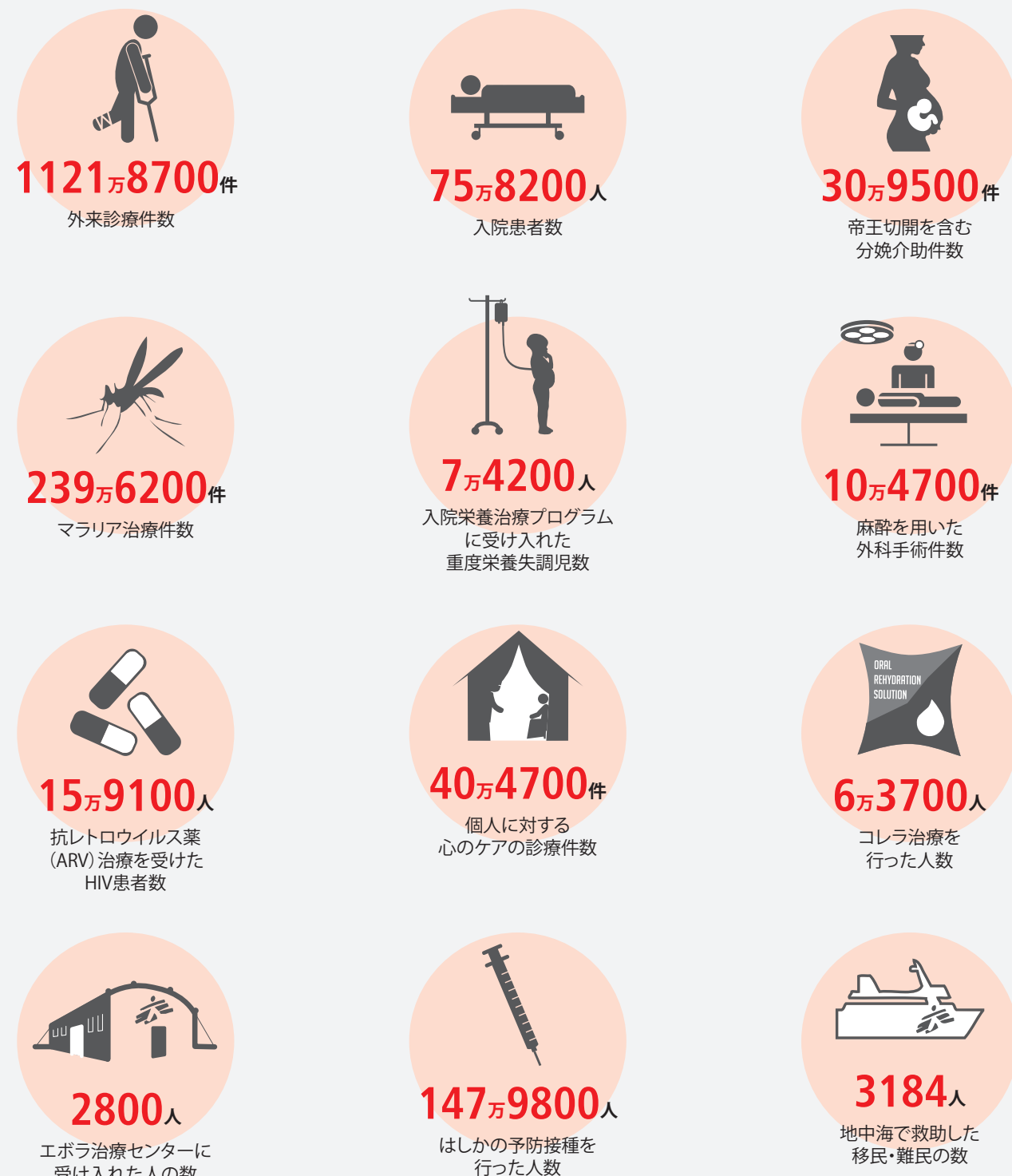
該当事項はない。

数字で見る活動ハイライト 2018

2018年、国境なき医師団(MSF)は75の国と地域で446のプロジェクトを展開しました。
活動のハイライトをご紹介します。

※ P.16～17は、MSF全体の活動を網羅した『国際版活動報告書2018』(英文)の抜粋です。2019年の実績は2020年7月に発表の予定です。
※ 個別数値は四捨五入して表記しているため、各数値の合算と「合計」が異なる場合があります。

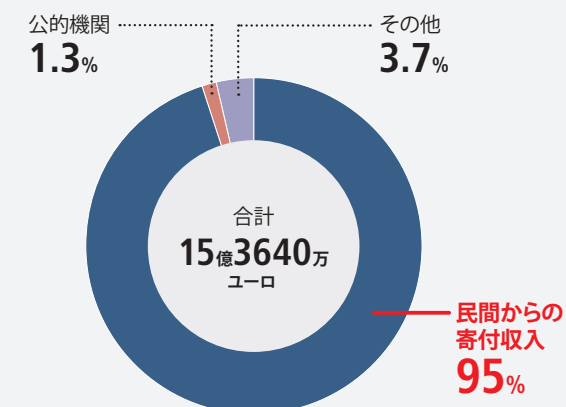
■ 活動実績



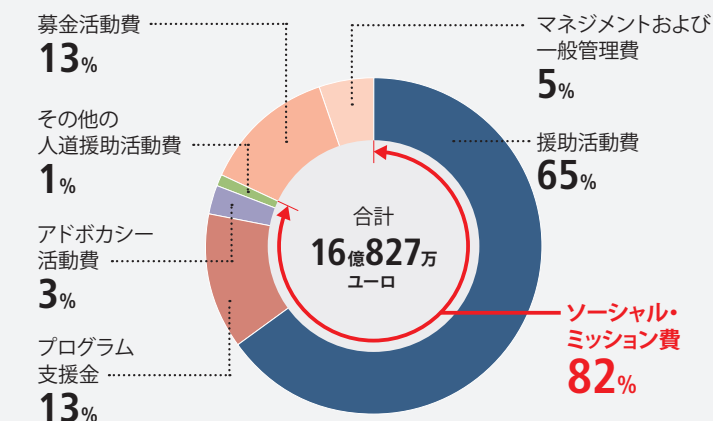
2018年のMSF全体の総収入、15億3640万ユーロの95%は、630万人もの個人支援者を中心とする民間からの寄付でした。また、全支出の82%をソーシャル・ミッション※費が占めました。

※ ソーシャル・ミッションについては10ページをご覧ください。

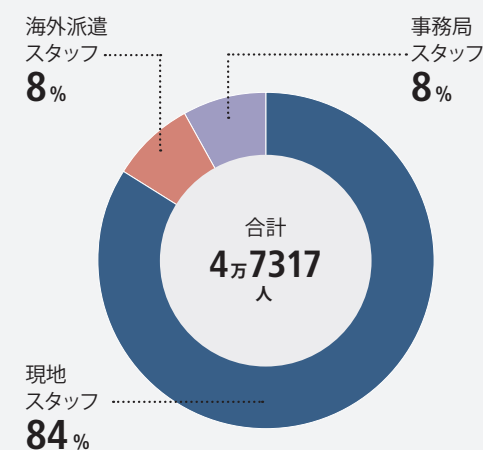
■ 収入の内訳



■ 支出の内訳



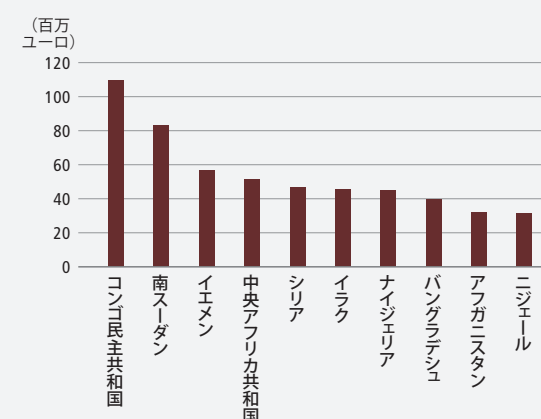
■ スタッフの内訳



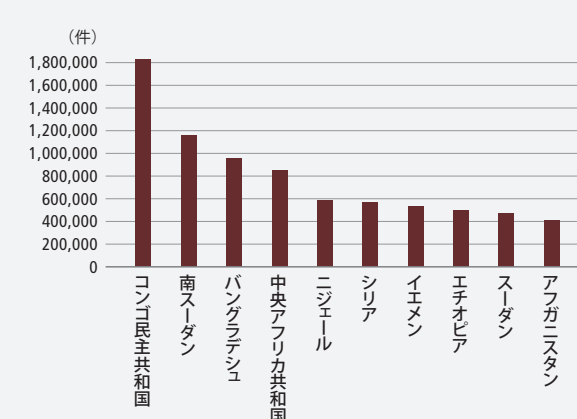
■ 個人支援者



■ 活動規模が大きい10の国 [プログラム支出順]



■ 活動規模が大きい10の国 [外来診療件数順]



皆さまのご支援、ありがとうございました

2019年、国境なき医師団（MSF）日本は、34万6984人の個人、9128の企業・団体の皆さまからご支援を頂き、世界各国でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。皆さまのご厚意に、心より御礼申し上げます。

個人支援者	他
会田 一郎	高尾 由紀
浅井 恒彦	孝橋 秩彦
東 淑子	高山 千羽子
足立 孝子	谷口 巳佐子
安達 信明	田村 俊郎
天谷 雅俊	富岡 淑子
荒木 一美	豊田 ひとみ
池田 順子	長嶋 通隆
石川 婦美子	中村 和也
井花 宏子	中村 光一
上戸 彩	羽岡 茂
牛尾 優子	羽田 綾女
江副 敬子	花畑 潔
大石 恵子	林 曉兵
太田 建三	久光 清子
大田 美智子	久光 由紀子
大曲 伸弘	Hielscher Kai
岡田 惇也	福岡 顯
岡林 正起	増井 昌子
岡本 利和	松浦 勝子
尾上 誠司	松本 美智子
川口 登	宮崎 基幸
川口 道子	葉 國璽
川崎 壽江	吉田 淳子
河辺 俊雄	吉森 睦子
菊池 咲子	
岸本 和彦	
京野 洋子	
清川 明哲	
金 慶光	
河本 紀子	
小嶋 千栄子	
小畑 昇蔵	
小松 昭子	
才田 博幸	
齊藤 郁夫	
齊藤 清助	
鈴木 國弘	
鈴木 光治	

MSFコーポレートサポーター
株式会社シグマ
MSFコーポレートサポーターとは、MSFの活動に対して、企業・団体としての賛同表明と、年間500万円以上のご支援、さらに社会に向けた活動紹介にご協力いただくプログラムです。
●事例紹介
株式会社シグマ
共感と支援、10年以上
弊社は「総合映像企業」としてものづくりを通し、豊かな社会の創造、優れた文化の醸成、世界平和に貢献することを目指すとともに、社員一人ひとりが一企業市民として社会的責任を果たしたいと考えてまいりました。
MSFは営利を目的としない医療・人道援助活動を行っており、その中立性と不偏性、独立性に基づく理念と写真や映像による広報・教育活動が、「写真は豊かな文化と幸福の希求に根差す」という当社の創業理念と、世界各国で展開している弊社事業活動の実際に鑑みて深く共感できることから、10年以上にわたり支援を続けてきました。
活動支援プログラム「MSFコーポレートサポーター」を中心に、啓発映像への機材協力や売り上げの一部を寄付させていただくなど、継続的に支援しています。
代表取締役社長 山木 和人


プロボノ・現物寄付
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業
ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所
ウイングアーク1st株式会社
株式会社セールスフォース・ドットコム
NHNデコラス株式会社
三和コムテック株式会社
株式会社 PR TIMES
リアリーイングリッシュ株式会社
大和リース株式会社
UBMジャパン株式会社
株式会社サンリブ
株式会社リンクマックス
ならファミリー
パーソルキャリア株式会社

支援企業・団体
株式会社ブレイリードッグ
株式会社保険見直し本舗
株式会社大和証券グループ本社
大和証券株式会社
リンベル株式会社
ソフトバンクグループ
ドゥ アンド ドゥ プランニング有限公司
株式会社ZOZO
株式会社シグマ
一般社団法人田代基金
フォーク株式会社
株式会社 みずほ
学校法人 映徳学園
有限会社 亀吉商店
ヤフー株式会社
チムニー株式会社
汽罐部品製造 株式会社
宗教法人まこと信心
株式会社ジェーシービー Oki Doki ポイントプログラム
農事組合法人ヤマギズム生活北海道別海実顕地
株式会社オフィス・カラーサイエンス
HIE株式会社
株式会社 木村洋行
TMコミュニケーションサービス株式会社
マスターマインドコンサルティング合同会社
株式会社エボスカード
博英工業株式会社
一般社団法人シェア基金
3909合同会社
株式会社 稲葉電機
アビデ株式会社
宗教法人 隆崇院
株式会社 サンブランド
朝日鑄工株式会社
八海醸造株式会社
日本郵船株式会社
株式会社 アイメディクス
株式会社 名優
大須賀技建株式会社
有限会社アークアソシエイツ
斎清工業 株式会社
医療法人 恵風会 田村クリニック
医療法人 はぐくみ いいもり子ども医院
日比谷総合法律事務所
ユニオンモーター株式会社
八千代電設工業株式会社
月島倉庫株式会社
株式会社ヤマエンタープライズ
株式会社不二機販
株式会社アイキ

次ページに続く

MSF日本(認定NPO法人)への寄付は、税制優遇措置の対象です

MSF日本への寄付は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれに定められている条件を満たすことで、優遇措置を受けられます。なお、優遇措置を受けるためには申告が必要です。詳しくは、最寄りの税務署にお尋ねください。

支援企業・団体(続き)

小華薬品株式会社
株式会社和泉エンジニアリングサービス
株式会社林家族
オリコグループ社会貢献ファンド
株式会社高山ジャパン
一般財団法人東野海外医療救護センター
スズカ電工株式会社
ジャンボパーキング株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社渡辺土木
株式会社メビウス製薬
前田歯科
株式会社ジャックス
株式会社 新興ハウス
株式会社ベネフィット・ワン
株式会社ハウスパートナー
株式会社 三
宗教法人 毛越寺
株式会社内藤建築事務所
東亜物産株式会社
有限会社ホワイト企画
ピースフル・コンサート越谷
一燈国際特許事務所
有限会社木場工業所
株式会社オリエンタルランド
ボランティアグループ マダムブロッコリー
杉本電機産業株式会社
株式会社 日本財託
Zuora Japan株式会社
公益社団法人 日本医師会
株式会社HOG
株式会社アイテム
小林興業株式会社
ベン株式会社
金氏高麗人参株式会社
株式会社 消防試験協会
A C J 株式会社
医療法人松風会
株式会社コーラルヘルスケア
株式会社ピークル
株式会社ゼネラルアサヒ
イケタ空調工業 株式会社
医療法人緑明会
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団
医療法人社団 わたまクリニック
株式会社ワールドアセット
株式会社プロテックエンジニアリング
株式会社 大林組
クール藤井

デスタン株式会社
京都チャリティ・ファンラン実行委員会
株式会社宝機材
株式会社白井ポリマー
株式会社ツチヨシアクティ
神谷コーポレーション株式会社
株式会社ソーゴ
一般財団法人世界聖典普及協会
株式会社コスモホーム
有限会社アイテック
有限会社稲垣工業所
ケイヒングループ京友会
株式会社トーコネ
レイシス合同会社
三ツ木建設工業株式会社
クリーンエネルギー株式会社
株式会社 デライト
公益財団法人 野村生涯教育センター
東亜電器株式会社
一般財団法人ザ・ブラフ・クリニック
医療法人 宗和
新日本美風株式会社
株式会社タカヤマ
株式会社ナノエッグ
みつわ工業有限会社
Neolive
ハルナビバレッジ株式会社
京セラ労働組合
エフエムジー&ミッション株式会社
株式会社 コンセプトアンドデザイン
吉原商事株式会社
株式会社バランス
医療法人社団 穂光会 いなば内科クリニック
ファルマ・ソリューションズ株式会社
帝国インキ製造株式会社

他

※大口のご寄付を頂いた企業・団体のお名前を掲載しております(順不同)。

企業・団体によるご支援の窓口を設けています

企業・団体としてのご支援に関するご相談は、こちらまでお寄せください。

●メール:corporate@tokyo.msf.org ●電話:0120-999-199 (平日9:00～18:00 土日祝・年末年始休 通話料無料)

企業・団体・個人のご支援方法・事例

国境なき医師団(MSF)日本の総収入は、96.4%が民間の皆さまからの寄付(内訳は個人91%、企業4.8%、その他民間団体0.6%)で成り立っています(2019年度実績)。
皆さまからの継続したご支援は、MSFの活動を通じて医療を受けられずに苦しんでいる人びとを救う、大きな力となります。ご支援は一般のご寄付に加え、さまざまなプログラムから、ご希望の社会貢献活動に合致したものをお選びいただけます。ぜひご協力ください。

商品・サービスを通じた寄付

各企業の製品・サービスなどの販売活動を通じてご支援いただくプログラムです。企業理念やブランド力を生かし、ビジネスの成長と社会貢献の両立が可能です。

●事例紹介

フォーク株式会社

「医療ユニフォームに携わるメーカーとして、世界各地で命の危機にひんしている人びとへの緊急医療援助を続ける国境なき医師団に協賛したい」という思いのもと、オリジナル商品「国境なき医師団スクラブ」などの売り上げから、1着につき300円を寄付いただいています。



男女兼用スクラブ

レディスジップスクラブ

株式会社ブレーリードッグ

企業理念に「地球愛」を掲げ、マスク＆マスクケースの売り上げから1点につき10円、エコバッグの売り上げから1点につき20円を寄付いただいています。



プロボノ・現物寄付

各企業の製品・プロフェッショナルサービスや施設の一時提供などを、現物寄付として提供いただくプログラムです。ビジネスで培った優れた商品力やスキルが、MSFの医療・人道援助活動に、活かされています。

●事例紹介

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所

クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業

ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所

契約書の精査など法務関係の相談・指導。

NHNテコラス株式会社

ウェブサイトのサーバーとサーバーの保守サービスを無償でご提供。

パーソルキャリア株式会社

リアリーイングリッシュ株式会社

採用フェアへの出展や能力育成のサービスを無償でご提供。

大和リース株式会社

UBMジャパン株式会社

株式会社サンリブ

ならファミリー

駅前や商業施設、イベント会場などでMSFの活動を紹介する「街頭キャンペーン」活動の開催場所をご提供。



街頭キャンペーン開催地のご提供を募集中

「街頭キャンペーン」の開催場所を1日単位でご提供いただける企業やイベント主催団体を、随時募集しています。

マッチングギフト

社員個人の寄付に対して、所属する企業がマッチング(同額を上乗せ)して寄付することにより、企業の社会貢献活動を促進するプログラムです。社員と企業が力を合わせて社会貢献活動に取り組むことにより、社会貢献活動としてのインパクトが大きくなることはもちろん、社内の一体感も高まります。

ポイント寄付

クレジットカードのポイントなど各企業のポイントプログラムを通じてご支援いただくプログラムです。ポイントの有意義な使い方として、また気軽に寄付できることから、幅広い層に人気です。

古い物を生かす寄付

ご家庭で使わなくなったお品物の買い取りサービスを通じてご寄付です。ご不用品の有意義な生かし方として、また送料無料で気軽に寄付できることから、多くの方にご利用いただいています。

●事例紹介

OLCグループ こどもスマイル基金

東京ディズニーリゾートなどの経営・運営を行い、従業員の方の任意参加プログラム「OLCグループこどもスマイル基金」の寄付先の1つに、MSFを選定。

オリコグループ社会貢献ファンド

社員の社会貢献活動を推進する募金制度。社員は1口100円から参加でき、会社は参加社員1名に対し100円を上乗せして積み立て、2015年から寄付を頂いています。

日本郵船株式会社

社員有志で構成されるNYKボランティアサポーターズと企業の健康経営推進「POPEYEプロジェクト」がコラボレーションし、「チャリRUN」(チャリティRUN+WALK)キャンペーンを実施。社員からの参加費やウォーキング・ランニングレッスン料に加えて、総距離に応じた額を企業からのマッチングとして寄付していただきました。

寄付型自動販売機

缶やペットボトル飲料の売り上げの一部が寄付となるチャリティー自動販売機。敷地内に設置していただける方を随時募集しています。

●事例紹介

寄付型自動販売機普及協会

設置をご検討いただける方はこちらまでご相談ください。
電話:0120-937-650
<http://kjf.or.jp/>



学校・地域・企業のイベントからの寄付

学校や地域、企業などが実施するイベントや、社員による募金活動などを通じてご支援いただくプログラムです。MSFでは児童・生徒の方を対象にした出張講演や出張授業のご依頼も受け付けています。

●事例紹介

ピースフル・コンサート越谷

2009年から毎年、入場チケットの売り上げからご寄付。

京都チャリティ・ファンラン実行委員会

第33回を迎えた歴史の長いマラソン大会の、参加費をご寄付。

向山こども園

毎年12月に開催する子ども市の収益金をご寄付。

MSF日本 2019

MSF日本の活動から

Updates of MSF Japan

広報キャンペーンのご報告

国境なき医師団(MSF)は医療援助活動とともに、広報・証言活動を重視しています。

2019年は2つの広報キャンペーンを実施しました。

南スーダン広報キャンペーン 「答えは変えられる。」



世界で最も新しい国、南スーダン。400万人以上が住まいを追われているこの国の人道危機と、人びとの窮状を変えられると信じて活動するMSFの理解を広

めようと、広報キャンペーン「答えは変えられる。」を実施しました。幅広い人びとに関心を持っていただくため、動画や特設ウェブサイトのほか、謎解き体験型イベントを開発、関東・関西の4大学の協力を得て実施しました。約1000人の参加者が、南スーダンに派遣されたMSFスタッフとして、制限時間内に謎を解きながら現場のミッションを疑似体験。人道危機の現場やMSFの活動理念を学べたと多くのコメントを頂きました。



開催期間: 2019年2~3月
ウェブサイト: <https://www.msf.or.jp/kotae/>

「エンドレスジャーニー ～終わらせたい、強いられた旅路～」



世界で7000万人を超える人びとが、紛争や迫害、暴力や貧困から逃れ、生きるために危険な移動を強いられています。「エンドレスジャーニー～終わらせたい、強いられた旅路～」広報キャンペーンでは、地中海、アフリカのチャド湖周辺、中東シリア、バングラデシュに避難するロヒンギヤ、中米の5つの人道危機を取り上げました。“強いられた終わりの見えない旅路を終わらせたい”というメッセージを込めて、動画、特設ウェブサイト、展覧会イベントを企画。東京での5日間の展覧会は、2500人超の来場者で盛況となりました。2020年は大阪など国内数カ所で継続開催します。



開催期間: 2019年11月～
ウェブサイト: <https://www.msf.or.jp/tabi/>



国境なき医師団日本

Médecins Sans Frontières Japan

理 事

会長	久留宮 隆 (外科医)
副会長	中嶋 優子 (麻酔科医／救急医)
	ユ・ソヒ (医師) Seuhee Yoo
専務理事	櫻井 理咲子 (薬剤師)
会計役	齊藤 哲也 (元国境なき医師団日本事務局職員)
理事	田岡 知明 (看護師)
	谷口 博子 (元国境なき医師団日本事務局職員)
	辻坂 文子 (コーディネーター／元国境なき医師団日本事務局職員)
	吉野 美幸 (外科医)

監 事

ジル・デルマス (疫学専門家) Gilles Delmas	
リチャード・シーベル Richard Sebel (元国境なき医師団日本事務局職員)	(2020年3月末現在)

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に設立され、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年には認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。その後、2012年のNPO法の改正により所轄庁となった東京都から、2013年7月に1度目の、2018年7月に2度目の認定更新を受けています。

活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。私たちとともに、命を救う力となってください。

寄付の申し込み
資料請求は

0120-999-199
(通話料無料 平日 9:00～18:00)
土日祝・年末年始休
www.msf.or.jp



国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、所得税、法人税などの優遇措置の対象となります。